

# ボラマガ

～ボランティアセンターマガジン～

平成24年12月15日号

第9号

発行 社会福祉 神栖市社会福祉協議会 ボランティアセンター  
法人  
〒314-0121 神栖市溝口1746番地1  
TEL : 0299-93-1029 FAX : 0299-92-8750  
ホームページ <http://www.kamisushakyo.com/vc/>  
メールアドレス [mail@kamisushakyo.com](mailto:mail@kamisushakyo.com)



市内で活動するボランティア  
おはなしボランティアの会  
ひまわり

神栖市立中央図書館の1コーナーに子供たちが集まりました。おはなし会の始まりです。11月17日の参加者は4歳からの子ども、そのご家族の計12人。読まれる絵本は、ゆかいなお話、動物たちがスープを分け合って飲むやさしいお話などなど…。子どもの年齢によって、直前に本を変えることもあります。

## 新鮮な気持ちでいられるから、長く続けられる

子どもたちに絵本や紙芝居の読み聞かせをする“ひまわり”の活動は平成4年から続いています。この日読んだ絵本「まゆとおに」で鬼が登場すると、一人が「おに、こわい」と声をあげました。鬼がその場にいると感じた、子どもの物語に入り込む力や感受性に“ひまわり”のみなさんは改めて驚きました。「同じ本を読んでも、子どもの反応はそれぞれ全く違います。読み聞かせをすることで、いつも新鮮な気持ちになれるから、長く続けられるんだと思います」と話してくれました。

読み聞かせて気をつけていることは、感情を込めすぎたり、押しつけにならないようにすること。良い本は読んであげるだけで、子どもはその世界に自然に入っていきそうです。

## 子どもに本を読んであげる、良い連鎖

以前はご家族が本を探している間、お子さんをお預かりすることが多かったのですが、最近は親子での参加が増えました。本を読んでもらって心地良い経験をしたお父さん、お母さんがその子に本を読んであげるという良い連鎖が生まれてくれればいいな、とみなさん期待しています。

「年を取ってもできる活動です。ライフワークとして細々と、長く続けていきたいです」と今後の活動について代表の田村さんは語ってくれました。

## おはなし会の開催予定

12月22日(土)、1月12日(土)・19日(土) ※毎月第2・第3土曜日開催  
午後2時から30分程度 神栖市立中央図書館 閲覧室にて

※ひまわりでは一緒に活動する仲間を募集しています。お問い合わせは神栖市社協ボランティアセンター(電話0299-93-1029)まで



左から安永さん、田村さん、岡野さん

# 特集 市内4つのわくわくサロンが15周年を迎えます

家に閉じこもりがちだった高齢者が家の外に出て、家族以外の人と話す。「また来月会いましょう」と別れて家に帰る。何気ないことですが、大切な場所をつくっている「わくわくサロン」。今回開設15周年を迎えた、または近々迎える神栖市内の4ヶ所のサロンにおじゃましました。15周年を記念して、それぞれのサロンに「長く続けるための秘訣」についてうかがいました。

## ふれあいサロンめだか in 新港公民館

★毎月第3日曜日開催

平成9年12月スタートの「ふれあいサロンめだか」は15年変わらず、童謡「めだかの学校」の合唱から始まります。「誰が生徒か先生か、みんなで元気に遊んでる」という歌詞に「ボランティアも高齢者もみんな同じ。みんな仲良く、みんな仲間」という思いが込められています。

### 体を動かすプログラムが増えました

いつまでも元気にいるためには体を動かすことが一番と、歌の後にラジオ体操で軽く身体をほぐすようになりました。「みんなと一緒に張り合いがでるので腕もスムーズに回るし足も上がる。だって、負けてらんないもの。」と参加者の一人がにこやかに話してくれました。

芸達者が多いことも「めだか」の自慢のひとつ。踊りの上手な高齢者が先生になり、踊りを教えるようになりました。今では「島のブルース」が流れると全員が立ち上がって踊り出します。全員で楽しく踊り、サロンはお開きになります。

### Q. 長く続けてこられた秘訣は？

A. 「参加してくれる高齢者のみなさんがとても楽しみにしてくれているから。そして、ボランティアの絆がしっかりしていること。高齢者のみなさんの笑顔が見たいから続けられます。」とボランティアのみなさんが話してくれました。



時には競争も！11月25日のメインイベントは「パンくい競争」でした

## ほっとサロン in 大野原児童館

★毎月第1火曜日開催

12月4日(火)はあいにくの雨。「雨の日は、お部屋でお茶を飲むのがいいですね」とサロン発足当初からの代表、菊池さん。あたたかいお茶を片手にみなさん話が弾みます。「今年は渋柿の渋抜きがすごく良く出来たから、たくさん作ってみんなに持つてくるわね」と早くも来年の約束をする方もいました。

### 手、体、頭を動かして健康づくり

平成9年4月スタートの「ほっとサロン」の活動は、主に体操や手芸です。「前はパッチワークでサンタクロースを作って、家に飾ってあるのよ！」嬉しそうに参加者の1人が話します。「サロンでみんなに会えるのが楽しみなの。」「自宅から出てみんなとお話するだけでもストレス解消になっていいのよ。」と、みなさんサロンの良いところを話してくれました。



### Q. 長く続けてこられた秘訣は？

A. 「サロンに人が集まってくれるから。また、参加者もボランティアも分け隔てなく一緒に活動を楽しむことができたから」と菊池さんが語ってくれました。雨の日でもカッパを着て自転車で大野原児童館にやってくる86歳の元気なおばあちゃんもいて、みなさん月1回のほっとサロンを楽しみにしている様子をうかがえました。



シルバーリハビリ体操

## 平泉わくわくサロン in 平泉コミュニティセンター ★毎月第2火曜日開催

平成9年12月に「平泉わくわくサロン」は平泉児童館(当時)の一室で始まりました。当時は開催のたび、ボランティアさんが自宅から座布団を会場へ運んで地域の高齢者を迎え入れていました。平成14年から平泉コミュニティセンターに場所を移し、座布団運びはなくなりましたが、今も参加者に楽しんでもらうために、衣装ケース1個分の小道具を毎回運んでいます。

### 感謝と笑顔

12月4日(火)に行われたサロンでは15周年を記念してボランティアによる日本舞踊とフラダンスを鑑賞。練習で磨かれた演舞に感激!“アンコール”の声が上がります。その後の昼食ではボランティアや参加者が持ち寄った手料理と赤飯、紅白まんじゅうにまた感激!ボランティアのみなさんのうれしい演出に「いつもありがとう」と感謝を伝えました。

「ここ来ると1ヶ月分笑える」と満面の笑みで参加者が語ったのが印象的でした。



### Q. 長く続けてこられた秘訣は?

A. 「ムリをしないこと。気張らないで、自然体で、できる範囲で参加することが一番。体調が悪くなったり、引越してしまったりとサロンに来る方は少しずつ変わっていきませんが、変わらないのは誰でも楽しめる、笑顔になれる場の雰囲気大切にしていること。」とみなさん語ってくれました。

## わくわくサロン知手浜 in 知手浜区民館

★毎月第1金曜日開催

平成10年2月にスタートした「わくわくサロン知手浜」。12月7日(金)、参加者2人の米寿のお祝いと合わせて、ちょっと早めの15周年をお祝いしました。多芸多才な参加者が進んで踊りや余興で場を盛り上げてくれて、ボランティアさんの用意してくれた昼食に舌鼓を打ちました。

### 知手浜に住んでよかった

「来月のサロンの料理を考えたり、試作をしていたら、あっという間に15年が過ぎてしまいました」と、サロンで主に料理の腕を振るっている石山さんは語ってくれました。神栖市に引っ越して来た当初は子育てと仕事の日々で、ご近所とのつながりもあまりなかったのですが、今はサロンを通じて仲良くなったみなさんが庭先で声をかけてくれたり、夕飯のおかずをお裾分けしてくれたりして、知手浜に住んでよかったなあ、と感じることが多くなったそうです。

### Q. 長く続けてこられた秘訣は?

A. 「みんなでできることを、参加者もボランティアも一緒になって楽しむこと」と、立ち上げから参加している傘木さん。スタート当時はサロンの数も少なく活動の情報も少なかったため、サロンでどんな活動をしようか、手探りだったそうです。手遊びや唄などが、自分も楽しいし、旧知の仲の参加者の多いこのサロンに合っているため、定着しました、と話してくれました。



・わくわくサロンとは、家に閉じこもりがちになっている地域の高齢者や障害者、子育て中の親子などが身近な公民館やコミュニティセンターなどに集まって気軽に楽しい時間を過ごす活動です。神栖社協は立ち上げのお手伝いや、取り組みへの調整など、側面的な支援を行っています。お気軽にご相談下さい。

問合せ先 神栖市社協 神栖地区 TEL0299-93-0294 担当:名雪 波崎地区 TEL0479-48-0294 担当:横田  
・サロンの予定は社協ホームページ、毎月1日(1月は4日)発行のかみす社協ニュースでお知らせしています。



## 祝『小平奨励賞』受賞 早田恵子さん

10月24日（水）、茨城県内で地道な社会貢献を続けてきた個人、団体を顕彰する「第40回小平奨励賞」の贈呈式が日立市で開かれ、神栖市の早田恵子さんが表彰されました。早田さんは、学生時代に養護施設への訪問活動に携わり、手話通訳、手話の普及、障がい児・者とその家族への療育支援などのボランティア活動の功績が認められ受賞となりました。

「たくさんの笑顔に会いたい。自分も笑顔になりたい。そんな思いで活動を続けてきた。これまでボランティアを続けてこられたのは家族と仲間の理解と支援があったから。本受賞はみなさんのおかげです。ありがとうございます。」と早田さんは受賞にあたり、語ってくれました。



表彰状を手にした早田恵子さん

小平奨励賞：日立製作所の創業者小平浪平氏の偉業をたたえ、日立教育振興財団と茨城新聞社が創設。



## 浜新田丸浜シニアクラブの皆さんから

### “パスケース”の寄付を頂きました



毎週金曜日、浜新田区民館で活動中

11月2日、社協波崎支所を訪れた浜新田丸浜シニアクラブの創作活動に参加している皆さんから、パスケース374個の寄付を頂きました。

きっかけは市役所の方から「高齢者の皆さんが福祉パス（高齢者・障害者の方が無料で路線バスに乗るためのパス）を紛失することがよくあるんですよ」という話を聞いたこと。『ひも付きパスケース』ならクラブの日頃の活動を活かし、みんなで協力して作れると考えたそうです。

材料集めや厚紙を切ったり、のり付けをした後に重石をおす等、大変なこともありましたが、みんなで毎日コツコツと作り、約2ヶ月で完成しました。「同じ世代の皆さんに喜んで使っていただければ、私たちもうれしいです」と、やさしい笑顔でお話してくれました。

心あたたまる寄付をありがとうございました。

パスケースの配布場所 … 神栖市役所 1階障がい福祉課窓口、波崎総合支所 1階市民生活課窓口にてご自由にお持ちください。



和紙製のひも付きパスケース



## 茨城県ボランティア活動研究集会

今年度は「広げよう、繋いでいこう、ボランティア」をテーマに、青年層のボランティア活動参加や活動を次の世代に繋ぐための仕掛けづくりを考えます。今回のボランティア実践活動発表では、神栖市を代表して“メイクボランティア”のみなさんが日頃の活動を発表します。ボランティア活動をされている方や興味がある方、是非ご参加下さい。

◆日 時：平成25年 2月 8日（金）12時30分～15時まで（受付 12時～）

◆会 場：大洗文化センター ※バス送迎有り

（市はさき福祉センター出発 8時45分 市保健・福祉会館出発 9時15分）

◆内 容：①講演「広げよう、繋いでいこう、ボランティア」

講師：山本克彦氏（岩手県立大学 災害復興支援センター 副センター長）

②県内のボランティア実践活動発表（神栖市他、県西ブロックの1市町村）

◆申込締切：平成25年1月18日（金） ◆参加費：1,000円程度（昼食代） ◆定 員：17名（先着順）

◆申込先：ボランティアセンター TEL 0299-93-1029（担当：馬場・下田）